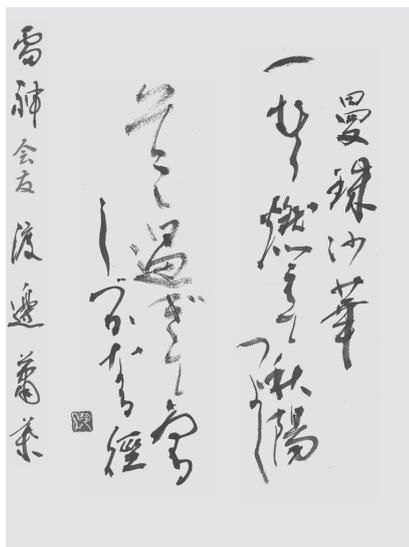


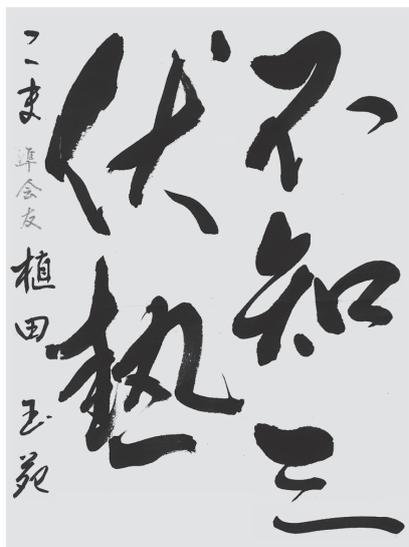
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



雷神 渡辺 蕭葉 紙面の余白が生きている。墨色が美しく老練な用筆は温和な雰囲気を出し、心が和み疲れのない作品である。
(審査評 二宮 桂秀)

【漢字半紙】



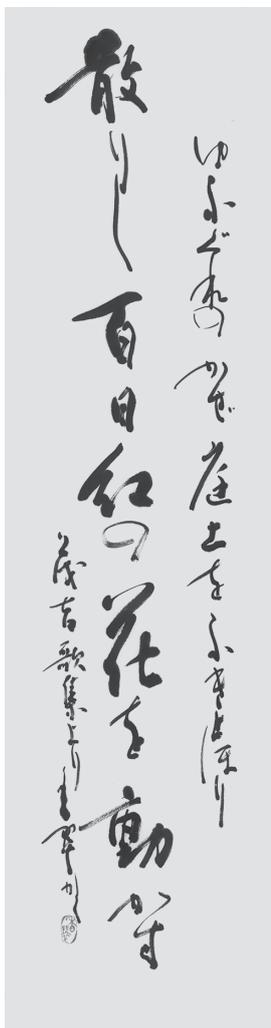
こま 植田 明子 「潑墨淋漓」十分に墨を含ませ大胆かつ自由奔放。余白明るく全体のバランスも絶妙で特に「熱」に熟達を見る。
(審査評 池田 知之)

【漢字条幅】



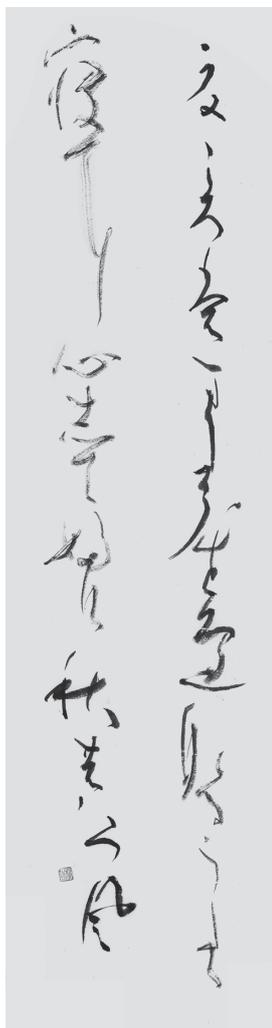
松 角田 茅水 静かな行の揺れを見せながら、穏やかな墨色と、鍛えられた線条で明るくまとめ上げられた一幅。
(審査評 永井 香樹)

【新和様条幅】



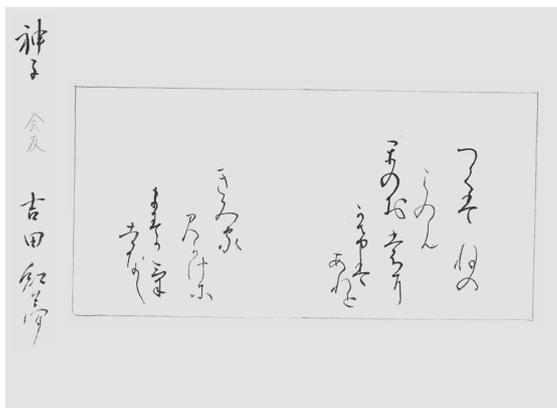
きし 根来 佐枝子 紙墨相和し、余白がきいて明るく上品な作。細字と大字がバランスよく配字され、詩文にあるように夕暮れの風が吹きとおるよう感じられる。
(審査評 東仲 遙郎)

【かな条幅】



書学 原地 桃香 墨色の変化が美しく、多彩な線を描く。二行目上部の伸びやかな渴筆と深く沈む線の豊かな表現が魅力の作。
(審査評 川島 史子)

【かな半紙】



神子 吉田 紅夢 字形・線質・墨の潤濁・線の太細など原帖をよく捉えている。特に三行目の豊かな墨量と行の流れで全体の白を纏め、美しい作品になった。
(審査評 岩浪 春鳥)

10月提出の競書の写真版全作品は、10月23日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

今月の優秀作品

伏熱 不知三
新名義 山本菜央

伏熱 不知三
松本 田中洋子

伏熱 不知三
松本 志井文哉

伏熱 不知三
中山 土谷長隆

伏熱 不知三
彩華 山本まゆみ

伏熱 不知三
西十 津久二 保光彰

伏熱 不知三
藍平 今井 小

伏熱 不知三
雪月 番場 和保子

伏熱 不知三
竹野 中野睦子

伏熱 不知三
神奈川 前藤伸子

丹楊好 同國彦
大菜 高橋達男

伏熱 不知三
千蘭 青藤実千代

伏熱 不知三
従水 井上理央

伏熱 不知三
彩華 池本 望

伏熱 不知三
大菜 木村 嘉洋

丹楊好 同國彦
和紀 立田美代子

伏熱 不知三
大菜 柴田 季子

伏熱 不知三
大楠 志賀 美穂

伏熱 不知三
仙水 川口凛々

伏熱 不知三
大分 安部 和遠

丹楊好 同國彦
芳水 柴原 小右

伏熱 不知三
玉名 内田 美子

伏熱 不知三
名学 藤井 顕子

伏熱 不知三
伊賀 奥谷 信代

伏熱 不知三
MM 山本 寿子

丹楊好 同國彦
品濃 藤井 美帆

伏熱 不知三
陽學 大比 龍美

伏熱 不知三
湘市 加藤 志保

伏熱 不知三
鹿書 清野 美志子

伏熱 不知三
平野 美志子

新潟 坂井 芝華
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

楡屋 岡本 忠泉
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

梅島 津三 藤本 悦子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

大楠 津四 玉田 祝典
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

公学 桑原 実香
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

吉学 常任 幸江
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

大楠 津二 柳館 蓮彰
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

青柳 津三 中島 優子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

南草 津四 田美 智子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

高峰 津三 徳永 美奈子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

S.T. 桜井 尚美
伏膺
文武
文武

吉学 初 和泉 詩
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

大楠 二 内田 祐子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

吉学 高瀬 尚子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

吉学 四 福井 四 柏葉
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

吉学 加藤 詠述
伏膺
文武
文武

吉学 初 藤奈 美子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

藤川 弘浩
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

公学 三 細川 美帆
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

邑心 四 市川 昌子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

文一 藤浪 有春
伏膺
文武
文武

楡屋 初 高橋 立子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

藤川 上 至 紀
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

吉学 三 齋藤 和子
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

大井 四 山崎 知恵
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

吉学 山口 礼新
伏膺
文武
文武

楡屋 三 望 聖 嘉仙
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

藤原 池田 登志 芳 隆之 枝
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

吉学 白田 美桜
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

公学 津四 青木 裕春
丹楊敷
丹楊敷
丹楊敷

学心
比猶
兒子
橋崎美智子 8

糸巾
比猶
兒子
有馬みどり 6

さつ
文伏
武膺
森屋陽美 4

書学
文伏
武膺
塩川麻美 3

梧星
文伏
武膺
金澤華愷 2

子三
比猶
兒子
門田 恭子 8

益
比猶
兒子
地曳由香 6

南立
文伏
武膺
宮崎千也子 5

春日
文伏
武膺
角田麻美 3

天元
文伏
武膺
杉森裕美 2

太田
比猶
兒子
柳志夫 7

大井
比猶
兒子
高橋千賀子 7

津園
文伏
武膺
田 志 4

山根
文伏
武膺
景山 剛士 4

二宮
文伏
武膺
北原 律子 2

和同
比猶
兒子
高原亮江 7

中原
比猶
兒子
立石明日香 7

清島
文伏
武膺
島田美和子 5

華
文伏
武膺
後藤晶子 4

東海
文伏
武膺
中野育子 2

唐扇
比猶
兒子
山田菜穂子 7

華月
比猶
兒子
小川佳奈江 7級

大楠
比猶
兒子
矢口あかり 6

南草
文伏
武膺
友田将子 4

書学
文伏
武膺
鈴木 紫 3

文全
比猶
兒子
赤田幸奈 10

書学
比猶
兒子
松本康乃 7

泉北
比猶
兒子
井上倫子 6級

書学
文伏
武膺
大津誠 5

馬山
文伏
武膺
朱田貴之子 7

青葉

準五段 白井百合子

おんしほをきかふ
みわたりしきり
のなをきかふ
あきさつりしき

登米

六 中荒井保信

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

書学
八段 酒井 泰希

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

書学
八段 中村 泰泉

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

水苑 準五段 池田佳子

おんしほをきかふ
みわたりしきり
のなをきかふ
あきさつりしき

湘北

六 沼野久美子

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

書学
準八 細平 希実

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

書学
準八 上條 直子

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

書学
準六 久間 玉葉

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

南
八段 岩根 忠美子

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

ぬま
準八 齊藤 和音

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

青空 四段 久米 寿美

おんしほをきかふ
みわたりしきり
のなをきかふ
あきさつりしき

歌書
準六 民部 田風

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

五
七 大友 忠

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

本
準八 平山 ゆい子

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

書学

四 齋藤 和子

おんしほをきかふ
みわたりしきり
のなをきかふ
あきさつりしき

永馬

五段 小菅 倫子

おんしほをきかふ
みわたりしきり
のなをきかふ
あきさつりしき

書学
七 加藤 晴美

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

ゆ
準八 服部 勉吾

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

徑春

四 生越 幸子

おんしほをきかふ
みわたりしきり
のなをきかふ
あきさつりしき

書学

五 上川 純子

おんしほをきかふ
みわたりしきり
のなをきかふ
あきさつりしき

金子 準七 武田 靖子

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

唯路
月 寺田 深華

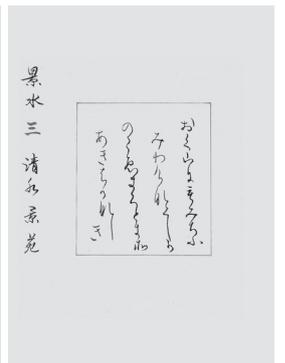
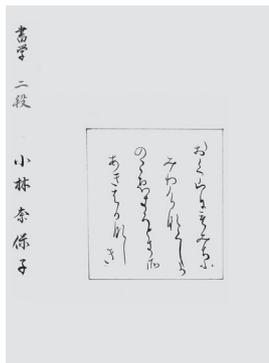
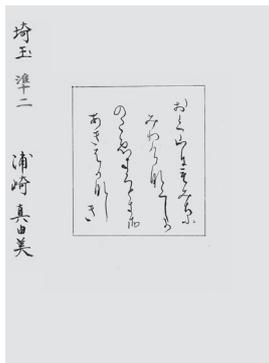
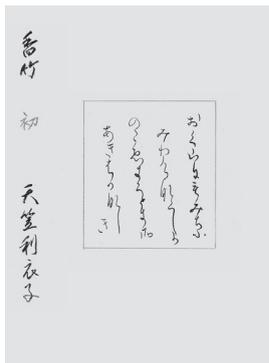
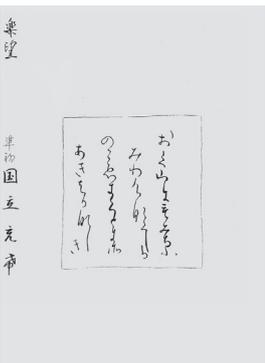
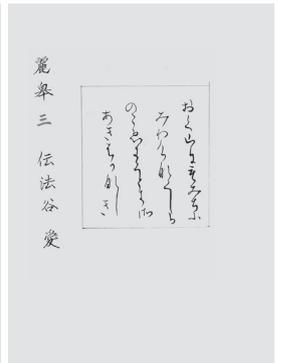
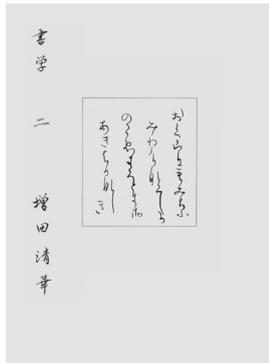
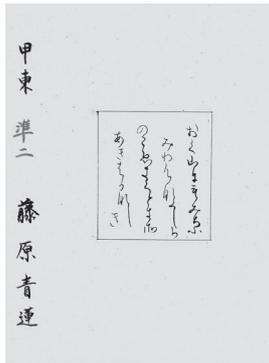
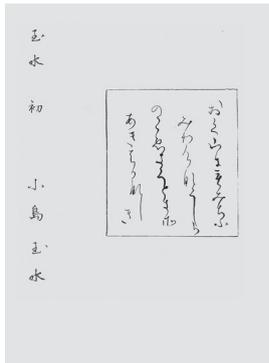
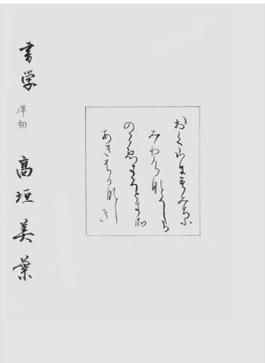
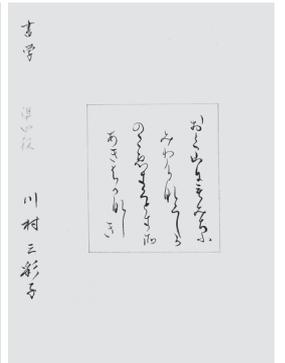
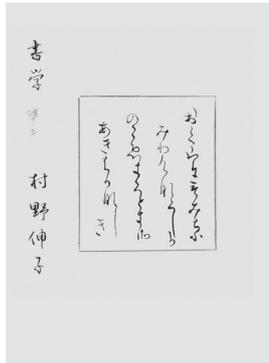
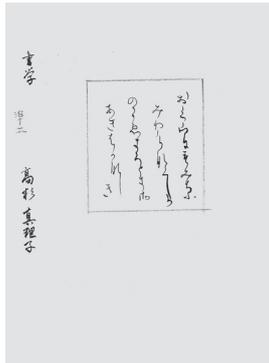
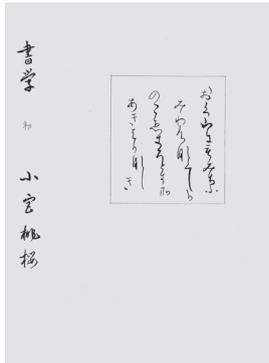
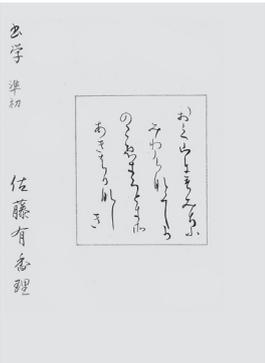
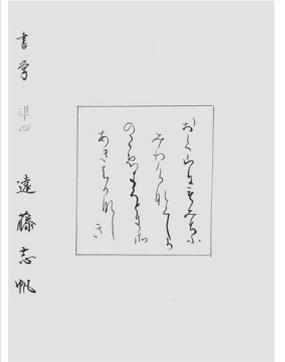
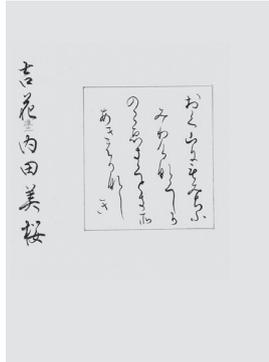
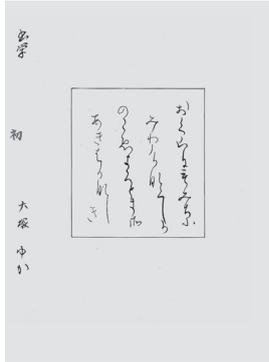
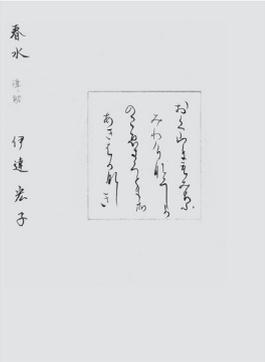
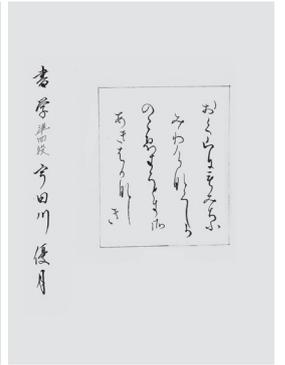
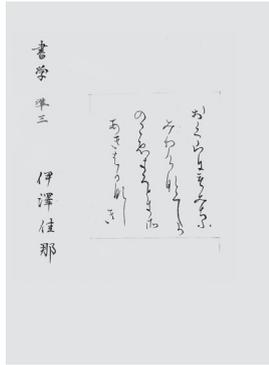
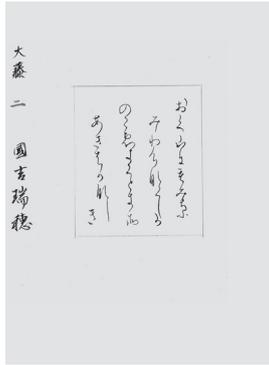
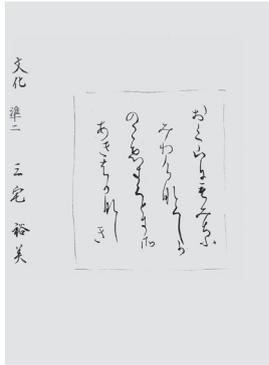
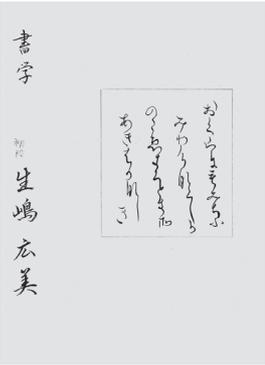
つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

書学
準七 佐藤 友里

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

Y
八 柳瀬 依代子

つそけの
のん
まののそり
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



登米 佐藤祐子 7
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 三浦春暎 6
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 小野佑里花 4
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 河村孝子 2
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

東海 井初段 宮原智子
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

豊里 大山妙子 8
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

永岳 中島裕子 6
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 鈴木 栄 4
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

みね 北澤睦 200
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

永岳 岩田智恵子 1
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

りみ 今村圭子 8
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 長谷 真吉 6
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

松 松本春英 5
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 関口美優 3
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 清水 陽子 1
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

和同 高原 亮江 1
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 大津 誠 7
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 宇田川 裕子 5
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

藍 福鳥 章 3
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 徳田 友美 2
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

唐扇 山田 菜穂子 10
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 林 幸子 7
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

青梅 玉坂 本明美 5
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

水藍 佐天 閣明美 4
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 山口 礼華 2
 千通成王堂達
 所行梵書を讀

書学 六 土屋勤子
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

書学 七 和久洋玉峰
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

水差 漢段川上稜泉
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

水差 漢段川上稜泉
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

東林 今友 藤巻持多
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

書学 六 伊藤律子
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

水差 漢七段 河合美由紀
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

小篆 六 藤原美幸
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

中山 漢金漢邊輝石
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

新書 今友 宮城景湖
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

京 漢六 柿崎洋子
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

不延 漢七 介田櫻香
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

三条 漢高加茂陽子
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

小沼 八段 仲村白露
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

華 漢今友 月妙 けし
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

水島 漢六 永田千寿
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

姫 漢七 中村楓香
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

大井 七 清水英子
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

書学 八 森山惠穂
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

松 漢 水野淡翠
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

水島 漢六 吉田和寿
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

和向 下島小織
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

仙水 漢 川口凍々
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

書学 八 中垣悠香
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

百合 漢 外山由他
曼珠沙華
一むら燃えて秋陽
そよ過ぎてある
しづかなる径

香吟 初 三 忠有里
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

書学 二 小山佳代子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

香吟 三 天竺利衣子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

書学 四 宗像陽子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

依念 五 石波梅子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

千麻 初段 菅原隆子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

洗心 二 後 糸村 遠樹
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

RU 三 アレクサンドル
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

玉弥 四 玉置 やよい
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

依書 五 段 千原 博
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

初段 二 松本春泉
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

書学 三 西田和子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

依伊 三 鮎谷美子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

書学 四 海老名 惠実子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

書学 五 石田 共子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

御殿 三 池田甲亨
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

書学 三 江本真理子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

書学 三 佐野和代
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

依島 準 四 櫻井 多恵
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

神聖 三 糸田 真帆
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

市川 三 権 名 友美
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

三花 三 二 藤原 美任
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

大糸 三 梅 沢 和子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

シヨ 三 四 岩島 美知子
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

小満 三 五 藤原 智巨
一本の朴
 地に立ちて我が
 見ればその葉
 たのしく翻したれ

大楠
祭田孝子
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

春水
山本美穂子 6
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

佐伊
鬼海章子
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

永岳
高橋千舟 2
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

書学
根本伊織 1
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

学心
橋本美智子 8
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

若里
佐藤亜美 6 規
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

梧星
金澤華佳 4
鶏鳴に露の
あつまる
虚空かな

書学
長谷直子
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

書学
山根美枝子 1
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

春日
山口早苗 7
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

大楠
矢口あかり 6
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

MM
鈴木絵津子 6
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

加茂
長谷川朋香 3
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

白蕙
内山慈遊 6
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

津
園田忠 7
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

書学
唐木真理子 7
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

横濱
坂元めぐみ 6
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

書学
須賀純子
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

唐菊
永井真紀 2
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

羊
内藤奈々江 10
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

春日
秀間多希子 7
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

中央
石黒お子 5 規
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

五香
館野祐子
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

益
園山梅雪 2
鶏鳴に
露のあつまる
虚空かな

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

水藍 池田 宇鷺

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

書字 小島 黄雪

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

秋田 伊藤 悠佳

好懶難辭友知窮
念通貧非理生拙

五香 大友 恵

好懶難辭友知窮
念通貧非理生拙

書字 竹中 奈和

落日故人情

仲秋下漸 奈和
書字 濱 富川 紗知

落日故人情

仲秋下漸 紗知

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

平泉 千葉 方彩

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

水荃 大井以知子

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

書字 小形久美子

好懶難辭友知窮
念通貧非理生拙

新潟 坂井 光華

好懶難辭友知窮
念通貧非理生拙

梧星 和泉田生華

落日故人情

仲秋下漸 生華
書字 大井 吉田 昌美

落日故人情

仲秋下漸 昌美

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

ブラ 高橋久美子

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

景水 清水 景苑

朱門巧夕沸歡聲
田舎黄昏靜掩扇

洗心 村松 永好

好懶難辭友知窮
念通貧非理生拙

書字 廣本 萌香

好懶難辭友知窮
念通貧非理生拙

梧星 岡本 恵泉

落日故人情

仲秋下漸 恵泉
書字 松原 矢野 瞳

落日故人情

仲秋下漸 瞳

かな条幅

文衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

東京 高木 令子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

未来 大内 笙苑

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

書字 伊藤 律子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

玉弥 玉置やよい

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

書字 佐藤 友里

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

書字 加藤 潤子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

書字 金澤 麻衣

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

こす 村岡 初江

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

野沢 高柳美佐江

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

紺青 下澤 克子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

交墨 綾部 白珪

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

青梅 小出 昭子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

書字 鈴木 茂美

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

書字 野澤貴代子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

欣書 民部田鳳春

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

水荏 大井以知子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

永岳 迫本 淳子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

書字 奥山多嘉子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

湘北 清野久美子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

永岳 新井ツヤ子

夏衣の書や水を、
神南備茶の室の中を、
秋の風

清和 武石有希子

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

書字 指田 敦子
洗心 瀧本 篁苑
若狭の国

ゆふぐれのかぜ庭土を吹きとほり
散りし百日紅の花を動かす

水荃 半田 喜子

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

書字 吉原 典子

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

大楠 三瓶 道代

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

水荃 木脇 美香
道代

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

祥風 東出 彩佳

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

祥風 東出 彩佳
新佳

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

仙水 天舛久美子
書字 中島 翠香
若狭の国

夕暮のかぜ庭土を吹きとほり
散りし百日紅の花を動かす

書字 三谷 武久

ゆふぐれのかぜ庭土を吹きとほり
散りし百日紅の花を動かす

書字 柴山 千恵

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

書字 佐藤 直子

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

書字 佐野 和代
道代

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

ゆめ 馬場おおり
和代

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

ゆめ 馬場おおり
妙藏

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

船橋 大津 素光
書字 川瀬 英之
若狭の国

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

青葉 向井いく子
深仙の国

ゆふぐれのかぜ庭土をふきとほり
散りし百日紅の花を動かす

泉汀 本山 由美

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

書字 藤村あゆみ
由美

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

書字 宗像 陽子
由美

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

野中 稲葉 青風
陽子

鳳仙花照らすゆふ日におづから
その實のわけて秋くれむとす

野中 稲葉 青風
青風

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
岐五 小倉 恵水

文部名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
瀬谷 浅井 柊 希

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
白山 松岡 清 夢

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
圭石 品田 佳子

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
天草 新 幾子

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
洗心 久保 治舟

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
大藤 鈴木 白 蓮

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
西宮 中島 美 幸

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
追浜 平田 智世

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
書学 百合 雅 子

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
たろ 久高 幸 明

教室名
氏名
ご丁寧なご挨拶誠に恐れいります
いつもながらのご芳情身にしみえありがたく
過分のお心づかいを賜りありがたう存じ

教室名
氏名
大畑 志 寿 麗 翠

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 伊澤 佳那

三菩提大王當知善知識者是大目録所
 謂化導令得見佛發阿耨多羅三藐三菩
 提心大王汝見此二子不此二子已曾供
 養六十五百千万億那由他恒河沙諸佛親
 近恭敬於諸佛所受持法華經愍念耶見
 衆生令住正見妙莊嚴王即從虛空中下
 而白佛言世尊如來甚希有以功德智惠
 故頂上肉髻光明顯照其眼長廣而紺青
 色眉間豪相白如珂月齒白齊密常有光

大森 谷 拓弥

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

紫泉 中村 紫泉

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

光丘 上平田一代

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 高井起久子

三菩提大王當知善知識者是大目録所
 謂化導令得見佛發阿耨多羅三藐三菩
 提心大王汝見此二子不此二子已曾供
 養六十五百千万億那由他恒河沙諸佛親
 近恭敬於諸佛所受持法華經愍念耶見
 衆生令住正見妙莊嚴王即從虛空中下
 而白佛言世尊如來甚希有以功德智惠
 故頂上肉髻光明顯照其眼長廣而紺青
 色眉間豪相白如珂月齒白齊密常有光

玉川 山田 恒子

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 増田 玲子

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 棚田 恵子

摩訶般若波羅蜜多心經
 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
 蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
 異色色即是空空即是色受想行識亦復如
 是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
 不增不減是故空中无色无受想行識无眼
 耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
 无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
 亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 北江 恵子

審査評—秋山 凌雲
規定 「寄雙魚」



書字 金丸 洋輔
線質が強く、潤濁もあり味わい深い作。外郭も四辺それぞれ変化表情があつて可



大森 谷 拓弥
疎画の字を細朱、繁画の字を満白にして模範的な朱白相間印となつた。



書字 和泉 詩
篆書の左右相称、分間布白という基本を踏まえた字法で外連味の無い作。落款も上手い。

随意 「楽此不疲」



水荃 山下 啓子
字法・章法が上手く、印全体に伸びやかさと明るさがある。「楽」字上の外郭は細かく欠かし過ぎたか。

規定 (煙)

審査評—松岡 雪華
書美の真髓を求める漢字の一字書——



水荃 青戸佑きこ 運筆の遅速緩急により、草書の筆脈の流れを表現した躍動感ある作品。押印の大きさと押し方にご留意を。

書字 藤森 泰明 偏と旁の疎密により、明暗の変化と立体感が表現された。控え目な押印が、作品に品致を添えた。

書字 豊田 九華 煙の異体字「烟」の草書体を流動感溢れる筆致で表現。墨色よく暢びて筆の軌跡の滑らかさに深い味わいを感じる。

広島 好田 萩水 「烟」の草書体の旁を低くした構成で、右上の余白が生きる。渴筆の書線に骨力があり、筆鋒の動きが冴える。

随意 (け)

審査評—松岡 雪華
詩情や筆遣ひの極意を知る平かな表現——



書字 藤井 顕子 紙面を圧倒する大胆な構成で、筆をねじり込むような深い線と骨力のある縦画が見事。押印の大きさと位置に一考を。

大畑 大畑 蒼極 「け」の字源「計」の偏を意識した一画目の力強さと旁の自然な傾きが響き合い、押印によって安定感を得た。

きし 中 守楽 直線を生かして「計」の草体を表現。二本の縦画に潤濁の變化あり、筆の開閉による滑らかな動きが余韻を醸し出している。

神子 吉田 紅夢 穏やかな運筆で引き締まった字形を表現し、滋味溢れる最終画に風情を感じる。押印により左下の余白がさらに生きた。